

農業の大切さ 郷土を愛する心を育んで 牛瀨小学校で田植え、虫送り

5月30日、牛瀨小学校の児童、保護者ら約200人が参加して、田植え体験と虫送り行事が行われました。児童たちは稲作体験や地域行事への参加を通して、農業の大切さや郷土の中で継承されてきた地域文化について学びました。後継者不足で一度は途絶えた牛瀨の虫送りは、21年前に地元の人々の熱意と努力によって復活し、現在では、学校、PTA、町内会が連携した地域あげての恒例行事となり、「つがるの宝」にも認定されています。



地域が一体となった一日

初夏を思わせる好天のもと、牛瀨小学校近くの学習田に全校児童が集まり恒例の田植え体験が始まった。田植えに先立ち儀式が行われ、蛭名祐一校長ら3人が水口に神酒を注ぎ豊作を祈る。PTA学習農園部長の工藤和一さんが植え方を指導し、1年生から6年生までの縦割りの班をつくり、裸足になって田んぼに入った。低学年の児童は上級生から教わりながら「あねこもち」の苗を植えて行き、父兄も一緒に力を合わせ、1時間ほどで約1反2畝の田んぼを植え終えた。「足がぬるぬるしたけど慣れてきて早く植えられるようになった」「秋の稲刈りが楽しみ」小学校最後の田植えとなった6年生は「班のみんなと協力できてよかった」と感想を話した。最後に児童を代表して工藤優香さん（6年）が「みなさんのおかげで田植えをすることができました。いろいろな準備をしてくださってありがとうございます」とお礼を言った。学校の体育館では牛瀨、下牛瀨の町内会の「名人」たちが虫送りのシンボルである「虫」を作っている。下牛瀨

地区が雌、牛瀨地区が雄の虫を担当。慣れた手つきで稲わらを巻き付け、縄を縛り、手際よく作業が進む。杉と銀杏の葉で飾りを付け形を整えて完成。児童たちもできたばかりの虫を前にその迫力にびっく。高山稲荷神社の権禰宜による神事と続き、虫に魂が注がれ、小山内竹一町内会長らが玉串をささげ終了。PTA会員が虫を担ぎトラックに積み込んだ。また、お母さんたちは昨年の学習田で収穫したもち米を使って赤飯を炊き、皆に振る舞った。午後、牛瀨八幡宮からいよいよ虫送りがスタート。2体の竜頭の虫を先頭に殿様と姫様、太鼓、荒馬、太刀振り、仮装の行列が町を練り歩く。若殿と姫様は1、2年生、荒馬は6年生の役割。児童たちは赤やピンクの法被や襦袢を身につけ、顔には化粧を施し、おのの役に成りきる。合図とともに児童たちは「サンサンサンソーレ」とかけ声をかけ、太刀振り舞を披露。息の合った舞に沿道から歓声がわき上がる。集落を一周して運行が終わり、2体の虫は集落の境界2箇所やぐらに置かれ悪疫から集落を見守る。

PTA会長の二川原英喜さんは「子どもたちには農業の大切さや地元を愛する心を培って欲しい。虫送りを通して、集落の中では子どもからお年寄りまでいろいろな人が役割をもって成り立っているということも伝えたい」と行事にかける思いを話した。

虫送りを復活させた人々



鳴海 久 氏

虫送りを復活させたのは昭和62年当時PTA会長であった鳴海久さん（牛潟町）をはじめ当時のPTAの人々でした。昭和50年代若い人達が都会へ出て行くようになり、6、7年間虫送りが途絶

えてしまいました。「私たちは、自分の家が農家なのに子どもに仕事を体験させることも仕事の喜びを伝えることもほとんどしなくなった。これではいけない。次の時代を引き継ぐ子どもたちには、米作りを体験させ、その喜びを伝えていかなければならない」そう思った鳴海さんたちは、その思いを当時の校長先生に語り、まずは学校用の田んぼを作ることから活動を始めました。

しかし田んぼを作ることは苦労の連続でした。牛潟地区の土地は砂地が多く保水性が悪かったため稲作に適した土に入れ替えたり、田光沼から水を引くための手続きや水路工事を行ったりと、当時の保護者たちが一致団結してようやく学習田を完成させ、全校生徒で稲作を体験することができました。

念願の学習田で子どもたちが楽しそうに田植えをする様子を見て鳴海さんたちは喜ぶと同時に虫送我也想復活させたいと思いました。しかし一度途絶えた虫送りの復活も容易ではありませんでした。もともと大人の男の踊りだった太刀振りを小学生ができるよう手直ししたり、お金をどのように工面するかなど真剣に話し合いました。虫送りに欠かすことのできない「虫」を作るため各町内会長宅へ出向き、虫送り復活の理解を求め、協力をお願いもしました。毎年の試行錯誤を重ねてようやく現在のかたちができあがり、虫送りは地域の絆を結ぶ大切な行事となりました。

地域の伝統行事の継承と世代間の交流が評価され平成10年には文部大臣賞を受賞しています。鳴海さんは「毎年試行錯誤しながら継続してきたPTAの団結力の賜」と当時を思い出しながら話していました。



郷土愛の深さを実感/姥名祐一校長



今年で赴任して2年目になりますが、学校と地域が連携して虫送りを学校行事として行っているのは県内でも珍しいと思います。本校の場合、PTAが子どもたちのためにとよく動いてくれるので町内会などとの広いネットワークが築かれています。虫送りを行っていることで、地域の歴史や文化の尊さを

学び、心の豊かさにつながっていると思います。また行事の中で「太刀振り」の役目を担うことで伝統文化を自然なかたちで学ぶことができます。児童たちは自主的に朝練をしたり高学年が低学年に教えたりしています。上級生にとってはリーダー性が培われ、下級生には縦の人間関係が学べ、縦と横のつながりのバランスがいいのも本校の特徴だと思います。

本校の児童だけでなく親御さんも含めてこの地区は「郷土愛」が深いと思います。田植え、秋には稲刈りや収穫感謝祭などいろいろな行事を体験する側もさせる側も地域に根差したさまざまな経験を通して地元を学び、愛着を持つことにつながっているのだと思います。

各地区の虫送り

牛潟地区だけでなく、稲垣町千年、木造筒木坂、豊富町など市内には虫送りを継承している地区があります。

稲垣町千年地区

千年地区では5月29日、地域住民ら約70人が参加し行われました。田植え終了を祝う「さなぶり」をかねて毎年行われる虫送りは、千年集会所を出発し、太刀振り踊りを囃子に合わせて踊る女性と子どもたちを先頭に、男性が木製の竜頭とステンレスの胴でできた全長10メートルもある虫を乗せたトラックをロープで引きながら集落内を練り歩きました。

虫送りの最後に、地区の入口にあるほこらの隣に虫を安置し、災いが入らないように祈願しました。



子どもたちが太刀振りを披露しながら虫を運行

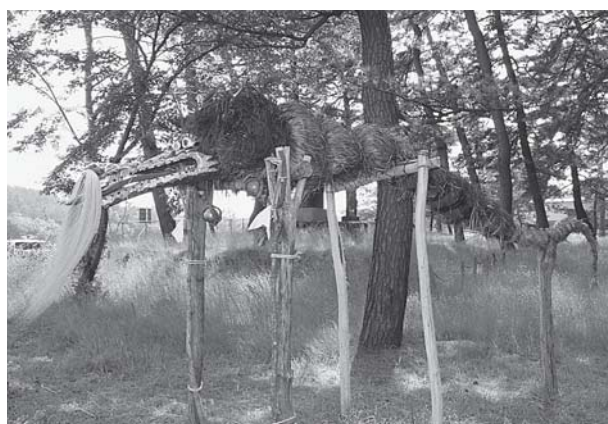


女性たちの踊りが虫送りを盛り上げる



筒木坂地区

6月6日、地区あがての虫送りが行われ五穀豊穡を祈願し2体の虫を運行。虫は集落の入口とため池のほとりに祀られています。



豊富地区

5月30日、豊崎稲荷神社で虫を製作。むらおこし拠点館フラット向かいの村民公園には存在感のある虫が集落を見守っています。

虫送りとは…

虫送りは、稲作や畑作に被害を与える害虫を追い出し、五穀豊穡や無病息災を願い、田植え後に集落単位で行われてきた伝統的な農村の行事です。地域によって方法はさまざまですが、竜のような頭に稲わらなどで編んだ胴体をつけた「虫」を運行して害虫を村の外に追い出し、村の境に安置して災いが入ってくるのを防ぐ役割を持っていると言われています。



千年地区の虫



不屈の消防精神で市民の生命と財産を守る 消防団定期観閲式

6月20日、第6回つがる市消防団定期観閲式がイオンモールつがる柏の駐車場で行なわれ、消防団員が日頃から行っている防火・防災訓練の成果を観閲者である福島市長に披露し、服装、分列行進、機械器具点検等の審査が行われました。



連携のとれた放水をする幼年消防クラブ



機敏な行動で機械器具点検をする団員



【観閲式の成績】

総合優勝 柏大隊(352点)
第2位 森田大隊(330点)
第3位 木造第3大隊(323点)
特別賞 航空自衛隊車力分屯基地第21高射隊

【玉落競技の成績】第1位のみ

●50馬力以下
木造第4分団第2部(芦沼) 35秒17
●51馬力～85馬力まで
柏第4分団(下古川) 19秒59
●86馬力以上
車力第2分団(下車力) 17秒41

現在、つがる市消防団は57分団、消防ポンプ車等83台が配備され、1400人の団員が消火栓や消防ポンプの管理、消火訓練等を行いながら、万一の災害に備えています。

観閲式では団員の視閲点検、消防車両の機械器具点検、分列行進等が行われ、47分団と航空自衛隊車力分屯基地第21高射隊が出場しての玉落競技も開催されました。また青森山田高等学校吹奏楽部の演奏や、いなほ保育園、柏第二保育所、柏第三保育所の園児が踊りで観閲式を盛り上げ、かわ保育園、銀杏ヶ丘保育園の園児らによる幼年消防クラブが、機械器具点検と放水訓練を披露し、将来の勇敢な消防士ぶりをアピールしていました。

引き続き開催された式典では、殉職消防団員へ黙祷を捧げ、表彰伝達・授与式が行われ、207人の団員が各表彰を受けました。消防庁長官表彰には、木造副団長の花田繁一さん、稲垣副団長の大高聖功さん、車力副団長の蝦名勝雄さんが表彰され、三村知事から伝達されました。

今回の観閲式の結果は、柏大隊が日頃の訓練の成果と安定した力で総合優勝を果たし、11連覇の快挙を成し遂げました。



消防団協力事業所表示制度について

消防団は地域の安全・安心を守る上で、必要不可欠な存在です。しかしながら、全国的に消防団員の数が減少傾向にあり、さらに消防団員のサラリーマン化が進み、地域における防災力の低下が心配される状況となっています。

そこで市では、従業員が消防団に入団しやすい環境づくりを行っている事業所、消防団員となった従業員が消防団活動に参加しやすいように配慮していただける事業所を「消防団協力事業所」として認定し、地域防災体制がより一層充実したものとなることをめざしていきます。

このほど、下記の事業所等が消防団協力事業所として認定されました。

○(株)箱田住宅工業 ○株式会社生田工務所 ○会津建設株式会社

つがる市消防本部では、つがる市消防団に協力できる事業所等を引き続き募集しております。

【問い合わせ先】つがる市消防本部 警防課 電話42-7255

